

■ 全体講評

公開模試の午前Ⅰ・Ⅱ試験では、本試験の過去問題を出題していません。そのため、特に午前Ⅱの難易度は高かったと判断します。午後の問題では、午後Ⅰ記述式試験において公開模試の受験者のレベルが昨年よりも高くなっています。午後Ⅱ論述式試験は、横ばい状態です。

受験者のレベルが上がっていると考える根拠として、一つは問題選択のミスが激減している点です。以前は受験者の10%前後がミスをしていましたが、前回は2%、今回の試験では1%以内に収まっています。

以上を踏まえると、最近の傾向として、記述式や論述式に体裁の整った解答が多いことから、今回の本試験もレベルの高い試験になることが予想できます。これから説明する解答作成のノウハウを確認して、得点力をアップし、より確実な合格を目指してください。

記述式試験では、次の点に留意してください。

(1) 難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが、難易度の低い設問を確実に正解して、得点を積み重ねることが合格には不可欠です。本番の試験で時間が余ったら、既に解けていると思った解答でも、全ての解答条件を満たしているかを確認するようにしましょう。

(2) 設問の解答条件を全て満足する解答を作成する

解答条件のうち、特に「～の観点から」という条件は、必ず満たすようにしましょう。

(3) 記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合、ページ数や設問数だけでなく、表などに小さい字で書かれていないかもチェックしましょう。

論述式問題では、次の点に留意してください。

(1) 計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において、最初に問うている30字が、計画やシステムの名称になっていないものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例に倣って修飾すること、例と同じ語尾になること、も大切です。本番の試験でも、質問事項は採点対象なので、漏れなく回答するようにしましょう。

(2) 論文は1枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書くと、双方のページに字が写るので、論文は1枚ずつ書くことよいです。

(3) 事例の詳細を書く

一般論を書いているだけでは、合格は難しいです。一般論を書いているかのチェック方法は次のとおりです。

①類似した題材で書かれた、他の論文の設問アをチェック対象の論文の設問アと入れ替えます。

②設問イやウでの論旨展開に矛盾がなければ、チェック対象の論文は一般論で構成された論文の可能性が高いと判断します。

その他、留意すべき点を次に挙げます。

(ア) 禁則処理をする

(イ) 箇条書きで、節を書き始めない、書き終えない

(ウ) 「いただく」「お客様(固有名詞を除く)」などの丁寧語は使わない

(エ) 「思う」は使わない

(オ) 括弧は、「(以下、～という)」以外では使わない

(カ) 問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(キ) 略字を書かない

細かいポイントですが、このような点に着目して採点されるケースもあると考えてください。

次に午後の試験の詳細な講評を説明します。

<午後Ⅰ>

問1 基幹システムの見直し

【講評】

設問文に記述されている解答条件を、全て満足する解答を作成しましょう。解答条件を満足しない場合、部分点ありません。具体的には、設問2(2)の販売予測情報については、「製品ごと」などの分類を含めること、と明記されています。例えば、「顧客で稼働する製品の買換情報」という解答については、解答の趣旨は解答例と同じですが、設問文にある重要な解答条件を満足していないので、厳しいですが部分点なしの不正解としました。

設問1(1)、(2)は正答率の高い設問です。

設問2(1)では、問題文の〔現在の基幹業務内容〕に「それが顧客の工場の操業に大きく影響するというリスクを顕在化させないために」と記述されていることを根拠に、「顧客の工場の操業」に関するメリットを指摘した解答だけを正解とします。厳しいですが、「A社製品の稼働率」を指摘した解答は不正解とします。理由についても厳しいですが「修理時間の短縮」を指摘した解答のみを正解としました。

設問2(2)では、「製品ごと」という表現のない解答が多い状況でした。このような設問は、本番でも出題される可能性があるため、漏れのないように留意してください。

い。このような解答については、厳しいですが部分点としました。

設問 3 (1)では、追加する機能について問われています。したがって、「資材管理機能」という機能は既に図 1にあるので、厳しいですが不正解としました。システム間連携機能に関する解答については、設問文に「図 1にある機能の表記に倣って」と記述されていること、及び、図 1ではシステム間連携機能に関する具体的な表記はなく矢印で表現されていることを根拠に、厳しいですが不正解としました。

【採点基準】

〔設問1〕

- (1) (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問2〕

- (1) メリット：「工場の操業」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。理由：「販売予測情報」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 販売予測情報：「顧客ごと」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点、その他は、基本的に 0 点。運転状況の内容：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問3〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。

問2 コンビニエンスストアにおける業務改革

【講評】

正解を導くためのヒントは、問題文で記述のありそうな箇所よりも前に書いてあることがあります。特に、終盤の設問では問題文の先頭部分にヒントが書いてあることがあります。具体的には、設問 5 (1)では、設問文の「不足している情報」というキーワードを基に、〔業務改善案の問題点〕の(3)を参照します。そこには「アップロードする情報が不足している」と記述されています。更に、同じく(3)の「C社と店舗の取決めを考えると」という記述から、問題文の先頭部分にある〔発注に関する取決め〕を参照してヒントとなる記述を探します。

設問 1 は難易度の高い設問です。解答解説にあるとおり、対象商品が 2 日に 1 度発注される点を踏まえて解答を導く必要があります。なお、「最低在庫数量を加算す

る」かつ「前日在庫数量を減算する」旨が表現されていれば部分点としました。

設問 2 では、レイアウト変更が可能なことから陳列順が変更される点、及び、店舗を巡回すれば陳列順に発注入力できる点を踏まえて解答を導く必要があります。

設問 3 は正答率の高い設問です。

設問 4 では、設問文にある「商品群 Z の商品が過剰在庫になる」及び「新しい商品の観点から」という記述から求めることができる「新規商品の過剰在庫」という趣旨だけの解答については、厳しいですが不正解とします。

設問 5 (1)は難易度の高い設問ですが、正答率は 2 割あり、解けない設問ではありません。

設問 5 (2)では、「送信データフォーマットの改修が不要である」点を指摘した解答がありました。設問文に「(1)で情報の不足を解消することによって生じる」と記述されています。一方、問題文の〔業務改善案〕の最後に「送信データのフォーマットは従来そのままとする」と記述されています。したがって、送信データのフォーマットについては、情報の不足の解消と関係なく、従来のものであることが分かります。「送信データフォーマットの改修が不要である」という解答については、解答条件を満足しないために、厳しいですが不正解としました。

【採点基準】

〔設問1〕

式を変形した結果が解答例どおりのみ 8 点、「最低在庫数量を加算する」かつ「前日在庫数量を減算する」旨が表現されていれば部分点 4 点。その他は、基本的に 0 点。

〔設問2〕

理由及び対応策：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 4 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問3〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問4〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問5〕

- (1) 不足している情報：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。理由：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 10 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。

問3 ソフトウェア開発の品質管理

【講評】

問題文に書いてある漢字を、誤った漢字で解答用紙に書かないように注意しましょう。4割くらいの人が「購買」を「購売」と書いています。午後Ⅱ論述式試験でも、「論述の対象業務は購売業務である」と書かれていることがあります。同じ漢字でも正しく書いたり、誤字だったりする解答もあります。解答は必ず見直しましょう。なお、午後Ⅱ論述式試験についてですが、漢字を思いつかない場合は、別の言葉で書くとよいでしょう。

設問1(1)は難易度の高い設問です。「既存のソフトウェアを流用して開発したプログラム」という解答がありました。会計業務については、「基幹業務再構築プロジェクトの概要」に「会計業務については、既存のソフトウェアを流用して、追加分を新規開発することになった」と記述されています。これを根拠に解答を作成したと推測できます。厳しいですが不正解としました。

(2)では、下線②の直前の段落において、会計業務については、問題ないと判断された旨が書かれています。したがって、会計業務を除外した業務について検討して解答を導く必要があります。

設問2は解答解説にあるとおり、「スタブ」が必須になります。「ドライバとスタブ」という解答は、厳しいですが不正解としました。

設問3(1)は正答率の高い設問です。(2)は難易度の高い設問です。設問文にある「再確認事項」という記述に答える解答を作成する必要があります。したがって、「～を再確認する」という旨の解答を作成するとよいでしょう。

設問4(1)はシステム日付を戻すことによる不整合を指摘した解答についても、解答例と同様の趣旨と判断しています。(2)は正答率の高い設問です。

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。

[設問2]

「スタブ」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、「ドライバ」を含む解答及びその他は、基本的に0点。

[設問3]

- (1) 業務名及び問題点を1セットとして全部で2セット、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各7点、その他は、基本的に0点。

- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。

[設問4]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例どおりのみ6点。

問4 大規模駐車場管理システムの開発

【講評】

設問文にある重要な解答条件に絡んでいない解答は、不正解の可能性が高いので、再度、確認しましょう。具体的には、設問3の回避策に「場外掲示板にも駐車エリアごとの空き駐車スペース数を掲示する」という解答がありました。一方、設問文に重要な解答条件として、「駐車場全体の満空状態が満車に近い状態において、実際の満車まで駐車させる場合」という記述があります。これでは「場外掲示板にも駐車エリアごとの空き駐車スペース数を掲示する」という解答と、内容面で絡みません。したがって、不正解の可能性が高いと考えてください。

なお、「場外掲示板にも駐車エリアごとの空き駐車スペース数を掲示する」という回避策を講じても、直前で他の車両が駐車してしまうという「ある事態」を回避できないと判断します。特定の駐車エリアに空きが1台あると、複数の車両が殺到してしまうことを回避できないからです。

設問1(1)、(2)は、高い正答率です。

設問2(1)、(2)は、高い正答率です。(3)について、解答に「車両番号」を含めた解答がありました。一方、解答例において車両番号を含めていません。これについては、設問文にある「画像認識開始要求の受信後から、開閉バーが開いて当該車両が入庫するまでに保存する必要のある情報」という記述を根拠にしています。車両番号の認識は、画像認識開始要求の受信後に行うため、受信の直後には車両番号は認識されていないということです。なお、車両番号を解答に含めていても減点の対象とはしていません。

設問3は、高い正答率です。

設問4は、高い正答率です。

【採点基準】

[設問1]

- (1) (a)：解答例どおりのみ4点。(b)：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点、その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。

【設問3】

ある事態及び回避策：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各6点、その他は、基本的に0点。

【設問4】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は、基本的に0点。

<合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

【午前Ⅰ・Ⅱ 多肢選択式問題】

学習方法の基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強することです。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

素晴らしい論文を書いている受験者に不合格になった原因を聞くと、午前Ⅱにおいて足切りになった人が多くいます。午前免除の方も、午前Ⅱ対策は試験の当日まで、継続するようにしましょう。

【午後Ⅰ 記述式問題】

過去問題の演習を中心に、解答を鉛筆で書くようにしましょう。自分の解答と解答例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満足する解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェックしてみましょう。

【午後Ⅱ 論述式問題】

問題文を読解する際に留意する点は、要件定義の内容や設計の内容が本当に問われているのか、という点です。システムアーキテクト試験では、情報セキュリティや全体最適では設計内容を問う問題もありますが、その他の出題範囲、例えば、要件定義などでは、設計内容などではなく、施策を中心に問われるケースが多くあります。設計内容なのか、施策なのかを問題で確認した上で、問題文の趣旨に沿って論述するテクニックを適用して解答を作成してください。

最近では、業務部門への提案内容、設計内容の説明責任に関するトピックが問われています。今年は、プロジェクトマネージャへの提案を含めて、提案や説明方法に関するトピックを事前に用意しておくといよいでしょう。

試験センター発表の午後Ⅱ講評から、システムアーキテクトは**対象業務の特徴を踏まえて業務システムを設計する能力の有無を確認**していることが分かります。設問イやウにおいて、設問アで述べた、システムの特徴、ユーザ特性、業務特性などを踏まえて展開できるようにしておきましょう。時間管理面からは、設問イからウに入るタイミングをしっかりと見計らって、時間内に論文を書き終えるようにして、合格を確実にしてください。

以上